論　文　要　旨

学位論文題目：中国語を母語とする日本語学習者の未知漢字語彙の意味推測
－漢字語彙の日中対応関係及び日本語習熟度の影響に着目して－

氏名：崔娉

語彙学習は、読解活動を通して付随的に行うことが多い。日本語の読解文章に多く出現する漢字語彙の意味推測について、これまでは非漢字圏出身の学習者を対象とした研究が多く行われてきた。本論文では、文字体系が日本語と類似している中国語と母語とする日本語学習者（以下、CJL）を対象に調査を行い、その未知漢字語彙の意味推測について検討した。日本語の漢字語彙は、中国語との形式・意味の異同の対応に基づき、同形同義の Same 語（以下、S 語）、同形異義の Different 語（以下、D 語）、同形であるが意味範囲が異なる Overlap 語（以下、O 語）、中国語にない Nothing 語（N 語）の 4 つの語彙カテゴリーに分けられる（文化庁，1978）。本論文では、CJL の未知漢字語彙の推測は、漢字語彙の日中対応関係（以下、語彙カテゴリー）、及び日本語習熟度（以下、L2 習熟度）によって異なるかについて議論した。

本論文は 2 つの研究から構成される。研究 1 では、英語を母語とする日本語学習者（以下、EJL）の意味推測と比較するため、Mori & Nagy（1999）のデザインを踏襲し、選択式の調査を行った。その結果、意味推測活動において、語彙手がかりと文脈手がかりの両方が与えられた場合、CJL は EJL と同様、手がかりを統合して意味推測を行うことが明らかになった。また、EJL と同様、CJL も L2 習熟度の高い学習者のほうがよりよく手がかりを統合するということも分かった。一方、CJL においては、文脈手がかりのみを利用し、語彙手がかりを無視するという傾向も観察され、この傾向は S 語において特に顕著であることが確認できた。また、文脈に過剰に依存して推測を行う傾向は、L2 習熟度の低い CJL に強く見られた。

研究 1 で各手がかりの利用の相互関係について検討したところ、CJL に関して、EJL と同様、「語彙手がかりの利用」と「文脈手がかりの利用」は、互いに関連していないが、この 2 種類の手がかりの利用は、共に「手がかりの統合」と関連しているという結果が得られた。そして、「語彙手がかりの利用」と「手がかりの統合」が関連している点は、EJL と異なる点である。L2 習熟度との関連について、Mori & Nagy（1999）では EJL において、「文脈手がかりの利用」との関連が見られたが、本研究では CJL において、「語彙手がかりの利用」と「文脈手がかりの利用」とでは、いずれも L2 習熟度と関連していないことが分かった。

研究 2 ではオーセンティックな文章を用いて、CJL に選択肢を提示せず発話思考法で調査を行った。その結果、CJL の推測の正確さに影響を及ぼすのが語彙カテゴリーのみであることが明らかになった。文章の難易度にかかわらず、S 語の推測が D 語、O 語、N 語より容易であるという結果が示された。そ

して、文章の難易度が下がると、D 語を正しく推測することが CJL にとって可能になるということも判明した。また、推測が易しい語と推測が難しい語のそれぞれの特徴について、質的分析を行った結果、未知語を囲む文が未知語の意味理解に有益な情報を提供する場合、CJL は容易に推測できるが、そうでない場合、「文の意味」以外の手がかりが必要となり、推測も必ずしも成功すると限らないということが示唆された。

CJL が推測に使用する手がかりの数と語彙カテゴリー、L2 習熟度の関係性について検討したところ L2 習熟度の影響は現れなかったが、語彙カテゴリーによる影響はあった。具体的には、文章の難易度に関係なく、S 語の推測に用いられた手がかりの数が N 語より少ないことが分かった。さらに、難易度の高い文章では、O 語の推測に用いられた手がかりの数が S 語より多いという結果も示された。また、質的分析の結果、CJL が推測に使用する手がかりの種類は、文章の難易度や語彙カテゴリーに関係なく、「文の意味」という手がかりが最も多かった。「文の意味」の次によく使用される手がかりの種類について、S 語は、「文章の意味」であり、N 語は「語の形式」であるという結果が得られ、D 語と O 語に関しては、ある一定の傾向が見られず、学習者による個人差が大きいことが示唆された。

推測の正確さと手がかりの数の関係性について分析した結果、難しい文章に出現する O 語の意味推測においては、手がかりを多く使用することが推測の成功につながりやすいということが分かった。

本研究では、2 種類の異なる手法を用いて CJL の未知漢字語彙の意味推測を検証した結果、非漢字圏出身の学習者との共通点及び相違点を示すことができたほか、CJL の推測の実態が語彙カテゴリーによってどのように異なるかという CJL 独自の特徴を提示することもできた。日本語の漢字語彙を対象語とした意味推測研究が全体的に不足している中、本研究は基礎研究として意義深い。さらに、語彙指導への教育的示唆も得られ、教育現場への貢献も期待できる。